

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 国語科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・小笠原村学力調査の平均正答率は64.7%で全国平均(59.2%)を上回っている。しかし、「書くこと」の領域の「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」問題の正答率は16.7%で全国平均(27.5%)を下回っている。
- ・設問の誤答状況を見ると、接続語を意識した文章の展開の理解に要因があると考えられる。

【課題】

- ・接続語を意識して文章を論理的に読解すること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】

- ・叙述を基に自分の言葉で表現すること。
- ・自分の意見を書いて表現すること。
- ・筆者の主張などを理解し、要旨をまとめること。

【具体的な授業改善策】

- ・相手に分かりやすく伝わるように文章全体の構成を考え、意見文や作文を書くことができるようにする。構成の過程で思考ツールを活用し、文章全体を見通して構成し、構成の効果を考えることができるようにする。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・説明的な文章の学習で、範読する際に、指示語、接続語、キーワードを見つけて印を付けるよう指導している。
- ・毎日提出する連絡帳の中の文章で、接続語を活用するよう声掛けをしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①教科書中の指示語、接続語を探して印を付ける。

<検証方法>

- ①授業内の課題（ワークシート、作文）で検証する。
- ②テストの解答状況で検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

【結果から】

- ・全体の正答率は60.1%で、全国平均(53.3%)を6.8%上回っている。
- ・領域では政治的分野の学習に課題がある。(領域「我が国の政治」が全国平均49.6%に対して本校47.4%)
- ・観点では知識・技能において、全国平均57.0%に対して、本校56.9%となっており、他の観点よりも下回っている。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

- ・社会的事象における知識・理解の習得、資料を読み取る習慣を身に付ける授業の推進
社会的事象における用語の理解、定着を図る。
表やグラフなどから社会的事象を自分事として考えられる、読み取る機会を増やす。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・单元ごとに小テストを実施して、社会の基礎的な用語の定着を図っている。
- ・独自のワークシートを作成し、自ら調べて学ぶ機会を設けている。
- ・プレゼンテーションソフトや動画を活用して、興味関心が高まるようにしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①一人一台端末を活用し、毎回の授業で前時の内容の小テストを実施する。
- ②ワークシートの中に、表やグラフからの読み取りに関する問題を多めに設定する。

＜検証方法＞

- ①2学期の評価で、「知識・技能」でAが付く生徒が50%を超えるかどうかで検証する。
- ②ワークシートに、資料からの読み取りができる生徒が80%を超えるかどうかで検証する。(ワークシートの採点)

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 音楽科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

アンケートでは、「授業を受けることが楽しいと感じる」という項目に対する肯定的評価が100%である一方で、「活動に積極的に参加できている」は否定的評価が4.2%存在した。理由は、「苦手だから」である。1学期の活動内容や、平時の取り組み状況を鑑みると、歌詞や音楽記号、聴き取ったことや感じ取ったことを関連付けて言語化し、自身の音楽表現に繋げる活動に対する苦手意識があったものと推察される。

【課題】 聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けながら言語化し、表現に繋げることができる力

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】

- ・聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える。
- ・自然で無理のない歌い方で歌う
- ・音符、休符や記号について理解する
- ・音色や響きに気を付けて楽器を演奏する。

【授業改善策】 常時活動を系統的に工夫して行う授業の推進

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

【言語化の支援】 聴き取ったことや感じ取ったことを言語化することに苦手さがある生徒が少なくないため、きっかけとなるような語彙を集めたプリントを配布した。歌詞や音楽記号を、情景や感情と関連付けながら、「言葉で表現できる」授業を目指す。

【ICT機器の導入】 本年度5月より、音楽室にモニター画面を設置した。実際に教師がお手本をして見せることの他に、視覚的な情報を積極的に与え、体の使い方や、奏法等のイメージをもてるようにする。また、2学期以降、器楽分野では各楽器の“お手本動画”をクラスルームに投稿し、生徒の学習端末から1人1人が視覚と聴覚を使って目標となる演奏を把握できるようにする。生徒自身が表現に意欲をもち、「音で表現できる」授業を目指す。

【音楽室のUD化】 授業の流れを板書したり、タイマーを用いたりして時間や活動を視覚化することで、見通しをもって授業に参加することができるようにする。また、教員の話に注意を向け、指示の聞き漏らしを減らすため、音楽室内の掲示物や設置物は最低限とする。教室の環境調整を通して、「集中が持続できる」授業を目指す。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①個人で考える時間だけでなく、少人数で意見を共有し、考えを広げ深める時間を毎時間に設ける。
- ②目で「奏法や運指」を、耳で「音」を確認しながら、主体的に練習できるようにする。

＜検証方法＞

- ①自身の考えの他、他者の意見で共感したのものがある場合は記入させ、振り返りには「授業前後の考えの変容」を記入させる。
- ②ICT機器を活用して、生徒が主体的に練習し、目指す表現に繋がられるようにする。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 美術科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・授業での学習を定着させる時間をとることができないこと。
- ・定期考査における得点力が伸びないこと。

授業アンケートにおいて、「制作などの活動に積極的に参加できている」では100%が肯定的意見だったのに対して、「定期考査に向けた学習に取り組んだ」という項目では肯定的意見が90%だったため。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。

- ・表したいものに合わせて材料や道具などの使い方のさらに工夫できるようにする。
- ・自分で発想したり、考えたりするのが得意な児童が多いので、さらに自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができるようにする。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・写真や動画資料の提示を多くして、表現や技法を感覚的に捉えることができるようにする。
- ・日常的に生徒の都合に合わせた補習を開講して、もっと作業がやりたい生徒のフォローをする。
- ・テスト前にも補習を行い、その学期の復習をして、生徒の得点力を高めるためのフォローをする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①個別指導を充実させ、それぞれの困難を理解する。
- ②振り返りをデジタル化し、制作と関連付ける。

＜検証方法＞

- ①作品への現れ方を見る。
- ②作品への現れ方を見る。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 保健体育科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・全生徒が、授業を受けることが「楽しい」と感じる授業を実践すること（23人中20人）。
- ・5教科を優先して、定期考査に臨む生徒が一定数いる。毎回の授業で専門用語などを授業中で活用しながら授業を進めていくこと。

2. 課題改善に向けた取組状況

（1）令和3年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】

- ・自分の体の動きを意識せずに学習をしている児童が30%いる。

【改善策】

- ・単元や1時間の見通しを持ち、主運動に繋がるように積極的に取り組むようにする。

（2）今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・各単元において、学習カードを使用し、見通しをもって授業に臨むこと。
- ・仲間と運動を見合う活動を通して、自分の動きを振り返る機会とすること。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①学習カードやワークシートを用いて、見通しを持ち、授業に臨むこと。
- ②学習カード等から、生徒の躓きを読み取り、個別または全体に共有すること。

＜検証方法＞

- ①各授業の導入部分でねらいを確実に伝えること。また、授業終了時に振り返りを行うことで、学習内容の定着を図ること。
- ②学習カード等を点検する際に、躓きを把握する。さらに、次時に活かすように教材を修正する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 技術科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・今までの生活で、のこぎりやげんのうやクランプを使用する機会がない生徒が95%を超えていた。

【課題】

- ・工具も初めて見聞きするものが多く、慣れていないこと。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

- ・関連する項目の記載なし。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・動画を多く利用し、工具の説明や実際の使用方法を解説している。
- ・一人称視点の動画を作成し、実際に工具を使用しているところを疑似体験する。
- ・工具の使い方を練習する時間を設けている。
- ・種類の違う材料を使用する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①動画を視聴し、工具を実際に使用する。

<検証方法>

- ①工具の使い方の練習をする授業を行う。その際に、工具の使い方や、安全に配慮できているか、作業工程の確認、作業精度を授業観察と製作物で判断する。また、種類の違う材料を使い、幅広い経験を積ませる。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 英語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・村の学力調査ではほぼすべての項目において全国平均と同程度であり、おおむね良好な状況である。
- ・領域では「書くこと」が92.7%の正答率と全国平均85.7%よりも高い値を示した。一方で、「聞くこと」「読むこと」に関しては全国平均よりわずかに高い値を示すにとどまっており、他の項目の優位性から鑑みるに改善の余地がある。
- ・以上のことからアウトプットよりもインプットに課題があると考えられる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

・該当生徒が小学校5年生だった小学校作成の令和3年度授業改善推進プランには「スモールトークで簡単な語句や基本的な表現について理解させ、身近で簡単な事柄を聞き取る技能の定着を図る。」「外国語の背景にある文化の理解を深めるために、ALT との交流を通して文化の理解を深める。また、具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う機会を増やす。」とある。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・単元の導入の際には文法事項等の説明の前に、音声のみ視聴、紙芝居形式の動画視聴、スキットの視聴とインプットを段階的に行うことで内容理解できるように工夫している。また、単元終了時には本文訳は配布せず大まかな意味を理解することに力を入れている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①ALT とのスモールトークは継続し、実際の英語表現に触れることでインプットの機会を多くつくる。
- ②教科書本文のリテリングをすることでインプットを前提としながら、英語力全体の向上を図る。

＜検証方法＞

- ①スモールトーク後や上記2. (2)での単元導入後に内容をどの程度理解しているかを確認する。
- ②リテリングに関する確認やテストを行う。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】